

# 名古屋三菱・朝鮮女子 勤労挺身隊訴訟を支援する会

# News

No. 57

2012. 8発行

## INDEX

|                   |    |
|-------------------|----|
| 協議決裂に関する声明        | 2  |
| 協議決裂に関する市民の会記者会見文 | 4  |
| 臨時総会開催            | 6  |
| 交渉の経緯と展望          | 7  |
| 運動方針 決議 抗議文       | 9  |
| 平和のための戦争展 日韓青少年交流 | 11 |
| 金曜行動再開            | 13 |
| 韓国の関連報道から         | 14 |
| 会員の皆様へ            | 16 |

## 協議決裂



## 金曜行動再開



# 三菱重工業との話し合いの決裂に関する声明

2012年 7月 9日

名古屋三菱・勤労挺身隊ハルモニ支援団日本側代表

高橋 信

内河恵一

岩月浩二

去る7月6日、戦時中、わずか12歳から15歳という幼い年齢で三菱重工業株式会社名古屋航空機製作所道徳工場に連れて来られて、軍用機生産の労働を強制された少女及びその遺族9名（以下、原告ら）が三菱重工業株式会社（以下、三菱）との間で解決策を模索してきた話し合いが決裂した。

原告らが三菱の謝罪及び損害賠償を求めた訴訟は、1999年3月1日名古屋地方裁判所に提訴されたものであるが、2008年11月11日、最高裁による棄却決定により、原告らの請求を棄却した名古屋高等裁判所判決（2007年5月31日）が確定し、訴訟としては一応の決着を見た。しかし、我々は、後記の通り名古屋高裁判決が、原告らの三菱に対する実体的権利は失われていないとした判断に基づき、その後も三菱に対して、人道的立場から被害救済を求め続けた。今回決裂に至った話し合いは、2010年7月14日、三菱が、話し合いの場を設ける旨の回答をなしたことから開始されたものである。

この話し合いは、事前折衝を経て、2010年11月8日から開始され、以来、16回の協議を重ねた。最終的に三菱が「本件は、日韓両国によって締結された請求権協定で国家間では解決済みの問題であり、（後記韓国大法院の）判決後にも日韓両政府からその旨の声明が出ている。また、日本国内では既に最高裁で当社に法的責任がない旨の判決が確定」しているとし、原告ら個人に対する何らかの金銭的解決は考えることができないとの基本的立場を改めて明確に表明したことから、決裂を余儀なくされたものである。

われわれは真剣に妥結の途を探り、三菱の立場にも配慮し、三菱が直接に原告らに金銭を支払うこととならない、基金による解決案すら提案してきた。にも拘わらず、三菱は、原告らの救済につながる一切の金銭の支払いを拒む姿勢を明確にした。16回にわたる長期間の協議にも拘わらず、三菱が頑なな態度に終始したことに我々は深い失望と憤りを禁じ得ない。

話し合いの場を設置するとの回答からすでに2年になる。極めて高齢となり、健康を害している原告らにとって、取り返しのつかない2年が空費されたのである。

三菱が頑なに解決を拒んだ根拠は、日韓請求権協定（正式名称「財産及び請求権に関する問題の解決並びに経済協力に関する日本国と大韓民国との間の協定」）である。

日韓請求権協定については、本年5月24日、韓国大法院が、広島徴用工が三菱を相手取って提起した訴訟において、日韓請求権協定を理由として戦時徴用被害者に対する賠償を拒むことはできない旨を明確にした。我々は、三菱に対する賠償請求訴訟が韓国内において多発することが韓国内における三菱の立場を損なうことを指摘し、韓国裁判所の判決手続によって解決を強いられるより三菱が自らの手で解決を図ることが企業利益にもかなうとことを説得した。三菱の拒否回答は、自ら韓国訴訟による不利益を選択した愚かなものと言わざるを得ず、極めて残念である。

三菱は日韓請求権協定によって、個人賠償の問題も含め解決済みであるとの立場に固執し続けた。しかし、国家間合意によって、被害者個人らの請求権を失わせることができないことは韓国大法院が指摘するだけでなく、中国人強制労働事件において日本の最高裁が認め（同判決は、訴訟手続によってこの請求権を実現することはできないとするに止まっている）、本件における名古屋高等裁判所判決も個人請求権は失われていないことを明らかにしているところである。

原告らは、国民学校（小学校）在学中又は卒業後まもない12歳から15歳のときに、担任教師や校長らによって「日本に行けば、（原告らが行きたかった）女学校にも行ける。働いてお金ももらえる」と騙されて日本に連れてこられ、軍用機生産の過酷な労働に従事



させられた者であり、あるいは1944年12月6日、当地を襲った東南海地震により命を奪われた者の遺族である。

名古屋高等裁判所判決は、原告ら幼い少女たちに対する本件動員が、欺罔による強制連行であり、当時日本政府も批准していたILO条約に反する強制労働であることを明確に認め、「個人の尊厳を否定し、正義・公平に著しく反する行為と言わざるを得ない」と三菱の行為を厳しく断罪して不法行為責任を認めた。同判決は、三菱の不法行為責任については賠償責任を承認しながら、日韓請求権協定によって、原告らが裁判所に訴えて賠償を求めることはできないとして原告らの請求を排斥したものに過ぎず、原告らの権利が存在していることは明確に認めている。日韓両国の裁判所が、被害者の三菱に対する実体的権利を、国家間合意によって、失わせることができないことを等しく認めたことは極めて重要である。

日韓請求権協定は、1965年に日韓の国交を回復する日韓基本条約（正式名称「日本国と大韓民国の基本関係に関する条約」）とともに締結されたものであるが、この協定に基づく資金は、本質的に被害者の救済に充てられることを予定しないものであった。すなわち、同協定によれば、この資金はあくまでも「経済協力資金」であり「日本国の生産物及び日本人の役務」によって供与されるものとされている。かかる資金が被害者個人の救済に使用されることがおよそ想定できないことはいうまでもない。国家間合意によって被害者個人の権利を奪うことができるかという個人と国家をめぐる根本的問題の他に、こうした協定に明示された事項をとっても、韓国の戦時徴用被害者の個人請求権を失わせることができなかったことは明らかである。

日韓請求権協定の背景には、朴正熙軍事独裁政権が経済協力資金によって自らの政権基盤を固めることを図り、他方、提供する経済協力資金を生産物及び役務に限定することによって、韓国内の経済協力資金による製鉄所を初めとする国家インフラの整備を日本企業（その多くは、同時に戦時加害企業でもあった）が受注することによって、日本企業の海外展開の足がかりとするという日本政府・財界の思惑があった。ちなみに、この構造は、まさに現在、原発事故をめぐる、がれき処理、除染事業を原因企業である東電の子会社を初めとする原発関連企業が受注しているのと同様の構造であり、このときの基本的な出発点の違いから始まる問題は、わが国の構造的問題として長く現在にも及び問題として残されている。また、日韓基本条約がこの時期に締結されたことについては、ベトナム戦争への韓国軍の派遣を求めるアメリカの要請もあったことが指摘されている。

権力の政治的思惑による、こうした国家間の合意によって、原告らを含む強制労働被害者は、日韓両国政府及び財界によって切り捨てられた。被害者らにとってあまりにも不条理であり、理不尽である。

我々は、日韓双方の民族主義のいずれにも与しない。

原告らは、まさに民族主義によって、少女の頃に日本に連行された事実をもって、「汚れた商売女」との烙印付によって生涯を苦しめられてきた者だからである。

我々は、個人の尊厳を根源的価値とし、平和的生存権を基底的权利とする日本国憲法の根本精神を国境を越える普遍的理念であると確信する者であり、この立場から、今後、三菱が自ら自主的に原告らを初めとする強制労働被害者の救済に当たることを求め続ける。

三菱は、紛れもなく原告らに対する加害企業である。

にもかかわらず、三菱は、かかる歴史的事実を「遺憾である」と述べるに止まり、恰も第三者であるかのような物言いに終始し、過去の過ちを真摯に反省する姿勢を示さなかった。原告らの救済を頑なに拒み続け、金銭的負担を伴う解決案として提示した内容は、既存の日本の財団を通じた韓国からの留学生に対する奨学金支援であり、原告らの救済とは全く無関係なものであった。

我々は、重ねて、かかる三菱の対応を満腔の怒りをもって告発するとともに、平和と人権を普遍的価値として共有する韓国市民らとともに、三菱が原告らに対する救済を果たすまで、断固として闘い抜く決意である。



## “国民の力でより 大きな歴史の審判が始まるでしょう”

### ■無誠意と傲慢なことで一貫した三菱重工業

去る6日、日本との過去清算の歴史の一枚が終った。日本の名古屋で持った16次交渉を最後に、最終的に決裂した三菱勤労挺身隊の交渉である。

今日私たちは人類の良心から一つの日帝戦犯企業を再びこの世に告発しようと思う。第1の戦犯企業三菱だ。結果的に言葉だけが交渉であって、終始傲慢なことこの上ない態度だった。道義的に申し訳ないという思いすら全くなかっただけでなく、交渉に臨む真摯な姿勢もまた垣間見られなかった。

もう貧困と病魔しか残っていない八十の被害者ハルモニたちの切々たる訴えも、彼らには馬耳東風であった。彼らには単に日本の最高裁判所判決以後、一步遅れて(韓国の)国民の間に反三菱運動が広がるのを遮断するための手管であり、交渉を理由にした時間稼ぎだった。

ハルモニたちの苦痛をよく理解すると言いながらも、65年の韓日請求権協定と最高裁判所の判決結果を強調した既存の主張だけを繰り返した。それなら当初なぜ、協議の席に着くと言ったのかと問わざるを得ない。韓日請求権協定を口実にしているが、それもまた説得力がない。いわゆる国家間の問題で解決されたという主張だが、こういう主張が過去には通じたかも知れないが、当時の請求権協定は個人請求権問題と関係ないという去る5月24日韓国大法院判決を通じて、もうこれ以上こういう主張が通じない境遇になったからだ。

事実このような論議すらまらないことだ。小学生に尋ねてみても構わない単純な問題なのに、本当に良心があるのなら、人を奴隷のようにこき使って韓日両国政府のペテンを言い訳に、賃金を支給する必要がないのはもちろん、謝罪も必要でないというのが果たして正しい主張なのか。百歩譲って交渉団が主張したのは法的判断ではなく、最高裁判所判決とも関係なく、歴史的事実に対する道義的責任を問うことだった。13歳、14歳の幼い少女らを進学をエサに連行し、強制労働をさせて、結果的に解放後‘慰安婦’に誤認され結婚を破棄されるなど、ひとりの女性としての自尊心まで踏みにじられるようにさせたことに対し、道義的責任次元から三菱がすべきことはないのか自らの良心に尋ねて答えてみるというものだった。

状況がこんななのに明日、明後日の命も分からない八十のハルモニたちに、‘ただ話でも一度聞いてみよう’という風に対したことは、百歩譲歩しても容認できない。やっとのことで切り出した話は、日本に勉強しに来た留学生に対して奨学金制度を検討しているという話だった。人を弄んでいたとしても、ここまで弄ぶものではない。三菱が韓国の留学生たちのために奨学金を施すことを考えたのは有難いが、いったいハルモニたちの問題と留学生のための奨学金に何の関係があるのか問わざるを得ない。韓国の留学生たちに奨学金を出す深い志しがあるのなら、しょうがやめようが、それは三菱が勝手に判断することで、私たちと論じる問題ではないのでないか。かえって、繰り返しハルモニたちの血が滲むハン(恨)をあざ笑うかのごとく、韓国の留学生らに奨学金に幾らかを出しあたかも企業倫理でもあるようにイメージ宣伝に利用しようとする態度は、百回非難されて当然だ。いつハルモニや交渉団が、奨学金をくれと言って話しあったことがあるのか! とんでもない奨学金の話を取り出すのは、前では苦痛を理解する振りをしながらも、後では本来へらへらと笑って弄ぶのと変わりがない。



■政府無関心、無対応が戦犯企業に勇気を与えた。

事実、反省することを知らない日本政府や戦犯企業三菱の態度など、昨日今日のことでない。問題は韓国政府だ。今回の交渉は全面的に国家が放棄した闘いを市民たちの至難な闘争を通じて、第1の戦犯企業を交渉テーブルに引き出した事例という点から格別な歴史的意味があった。しかし結果的に大韓民国政府は市民がやつのことで造り上げた交渉テーブルにすら冷水を浴びせてしまった。市民と原告が2年間玄海灘を行き来し、困難な交渉闘争を行っている間、わが政府は何の助けもしなかった。交渉があるのかないのか、いったい何回進行しているのか、要求案が何なのかすら知らずにいたし、知らずともしなかった。

さらに、交渉の歴史的意味を勘案して政府に数回協力を要請したにもかかわらず‘民間企業とのこと’として、他人事を見るように徹底的に知らぬ振りをした。さらに小学生から八十歳の老人まで出て市民の寄付を集めて困難な交渉を継続している間、政府のどの部署、政界から電話一本貰った事実がない。政府は交渉団を助けるどころか、逆に戦犯企業の手だけ掲げていた。三菱を相手にした10年余りの訴訟が終わる頃、三菱重工業は海外商業衛星の内最初に韓国で‘アリラン3号衛星’を受注したし、国家発注事業に対する戦犯企業入札措置が面目を失う程三菱は数千億ウォン台の発電施設入札を独り占めして来た。5.24大法院判決を無力化させたことは決定打であった。“65年の協定に含まれるものなので政府が別に要求する必要はない”と言ったかと思えば、揚句には“民間のこと”という風に足を後に抜いてしまったのではない。外交通商部が先ず出て、まるで日本外務省が言いそうな発言を先にして、日本の心配をするような態度だから、その結果がすでに定まっていたものだった。立場を変えて考えてみよう。韓国政府が立ち上がって助けるべきなのに、戦犯企業三菱が交渉に慌てる理由がどこにあるのか。一言で、最高裁判決まで無視した韓国政府の無対応、無関心が戦犯企業の傲慢さに勇気を与えたと言わざるを得ない。図々しくも日本が徴用被害者らのハンが積もった場所を世界文化遺産に登載すると騒いでいるが、政府はかえって国民の目を避けながら侵略国と韓日軍事協定を整えて来たではないか。嘆くべきだが、こういう状況で過去の清算とは何の過去清算なのか！

■市民の力を集め、より威力的に闘争すること

市民たちの期待にもかかわらず、私たちは苦心の末に交渉決裂という道を選択するしかなかった。いくら苦難の道でも被害者の名誉を回復し正義を正す道なら拒まないだろう。韓国裁判所に訴訟を起し、反三菱デモ、不買運動など可能な限りのすべての方法を総動員し、今までより大きい威力的な闘争を作り出すだろう。

歴史の審判に時効はない。明確に明らかにしておくが、三菱の傲慢な態度は必ずより大きい代価を払うことになるこの場で警告する。合わせてイ・ミョンバク政権の反民族的売国行為もまた同じだ。今まで先に立って道を作って来たように今後の闘争も、市民が先頭に立って作り出すだろう。

“国民の力でより大きい歴史の審判が始まるだろう”

2012年7月9日

-勤労挺身隊ハルモニと共にする市民の会-



## 臨時総会開催

# 活発な議論は勝利の前奏曲だ

8月3日、三菱重工との協議決裂を受け、今後の会の方針を決める臨時総会が開かれました

**交渉は決裂しても責任は免れない！**

「交渉決裂」をうけて、交渉経過の報告と今後の方針を話し合う臨時総会には、急な呼びかけや平日の夜にもかかわらず約60名の会員が参加され、限られた時間のなか活発な議論と意見交換が行われました。



交渉の経過については、内川弁護士団長、高橋共同代表、岩月弁護士が報告をされましたが、当初は真剣に問題解決に取り組んでいた三菱重工の変心ぶりを、独特のユーモアで包んだ怒りの内川弁護士団長報告が印象的でした。交渉は決裂しても、三菱重工が、実質的に別会社論を改め被害事実を認めて、交渉に応じた事実は消し去ることができません。

**嵐を呼ぶか！？韓国大法院の判決！**

梁錦徳ハルモ二ら五名は、韓国大法院の判決に励まされて、8月中にも三菱重工を相手に新たな裁判を起こします。勝訴の判決は、早ければ年内にも出るかもしれません。梁錦徳ハルモ二らが必ず勝訴しますから、もし三菱重工が悪あがきして判決を無視すれば、韓国で受注した工事代金や利益に対する仮差押えなどの法的対応が可能となります。そうなれば、今まで泣き寝入りを余儀なくされていた多くの強制連行強制労働の被害者が、梁錦徳ハルモ二らの後に続くことになります。

**金曜行動再始動！・・・！！（がんばろう！）**

高橋共同代表より当面の方針として、韓国での裁判闘争に連帯して「金曜行動」の再開が提議されました。今までの金曜行動は、運動の流れの中で始まった闘いの一つでした。しかし、8月10日から始まった金曜行動は、「交渉決裂」に対する全会員の憤怒と決意の表れです。総会で決議承認された新金曜行動が、新たな流れを作りだします。

**戦犯企業三菱重工は、ハルモ二らに謝罪賠償せよ！**

最後になってしまいましたが、総会での議論意見表明の基調は、「1、三菱に決裂は失



敗だったと思わせるような行動をしよう。2、国の責任を追及する運動も重要だ。議員への働きを強め、国会で質問するなど国会の問題で議論されるようなとりくみをしよう。」の二点に大きくまとめられます。・・・！（ファイト！）（文責 林安沢）



# 三菱重工交渉の経緯と展望

2012. 8. 3 岩月浩二

〈はじめに〉 声明（別掲参照）

## 第1 会談の経過（時間は数え間違いあり得る。概略時間）

- 第1回 10年11月 8日（月）東京（4時間20分） 挨拶・梁錦徳、金性珠来日
- 第2回 10年12月20日（月）東京（4時間）
- 第3回 11年 1月24日（月）名古屋（4時間15分）
- 第4回 11年 2月28日（月）東京（5時間10分） 提案骨子
- 第5回 11年 4月 4日（月）名古屋（5時間15分）
- 第6回 11年 4月22日（金）名古屋（4時間25分） 回答
- 第7回 11年 7月 4日（月）東京（5時間）
- 第8回 11年 7月29日（金）名古屋（3時間）フリートーク
- 第9回 11年 9月 8日（木）東京（4時間） 事実確認提案
- 第10回 11年10月25日（火）名古屋（3時間30分）
- 第11回 11年12月 2日（金）東京（4時間30分）
- 第12回 11年12月26日（月）名古屋（4時間40分） 会社側事実確認案
- 第13回 12年 2月14日（火）東京（4時間35分） （韓国選挙情勢）
- 第14回 12年 3月21日（水）名古屋（4時間15分）
- 第15回 12年 5月11日（金）東京（5時間40分） 回答
- 第16回 12年 7月 6日（金）名古屋（7時間8分） 決裂

※この間事前協議12回

## 第2 会談設営まで

- 10年6月23日 株主総会前日行動 韓国13万4162筆署名、  
李庸燮議員韓国国会議員299名中100筆の署名を集約・提出
- 10年7月14日 話し合いの場設置に関する回答
- 10年7月18日 光州打ち合わせ 参加者約30人 針のむしろ
- 10年7月28日～11年9月24日予備交渉（計7回）  
話し合いのルールをめぐる攻防 謝るとすれば、梁錦徳さんに謝りたい。

## 第3 本会談

- 1 第1期 第1回～第5回（10年11月8日～11年4月4日）
- 2 第2期 第6回～第7回（11年4月22日～11年7月4日）
  - ・金銭膠着
- 3 第3期 第8回～第12回（11年7月29日～11年12月26日）
  - ・事実認定
- 4 第4期 第13回～第16回（12年2月14日～12年7月6日）
  - ・見極め

## 第4 成果と今後

- 1 決裂時期は最高だったろう。
  - ・大法院判決でも動かないことが確認できた。
  - ・原告にとっては被害回復の具体的見通しがある。
  - ・大法院判決以前に解決していた場合、判決との差が問題になる。
- 2 日韓市民の認識の隔たりが縮まり、協議団は一体化した。
- 3 運動は、段取り通りに行かない方がよい。
  - ・選挙を当てにせず、大法院判決を望まず、勝訴した。

# 原告・「市民の会」の運動と 「支援する会」の運動方針

8月3日臨時総会で決定された当面の活動方針です。

- 1、原告・韓国「市民の会」の運動方針（7月18日、日韓運動家交流会議IN名古屋から）
  - （1）8月15日（水）に光州地裁に提訴予定
  - （2）署名・示威・不買運動
  - （3）国会・議員との連携
  - （4）個人メディアを使った運動の拡大
  - （5）三菱本社と日本政府に向けた東京行動
- 2、韓国での提訴・運動に連帯する金曜行動の再開等（下線部の時間帯は総会后修正）
  - （1）金曜行動を再開する目的
    - ①都民、重工社員に「協議の真実」を報告する
    - ②韓国の法廷闘争と運動に連帯する
    - ③これまでの謝罪と補償を求める運動の継続として取り組む
  - （2）金曜行動の期間、形態等
    - ①8月10日（金）から光州地裁判決まで。当面、年内（20回：50万円～60万円）を目処  
※再開第1回目である10日（金）は、「協議の真実を」報告する宣伝・ビラまき行動を品川駅前（8時15分～9時30分）と本社前（10時30分～12時00分）で行う。  
\*三菱重工の夏期休暇 8月11日（土）～8月15日（水）
    - ②以後8月17日からは、横断幕（謝罪と補償を求める）とハンドマイクで品川駅前（8時30～9時30分）、本社正門前ではサイレントアピールを（10時30分～12時00分）行い、30分 毎にシュプレヒコールを計4回行う。ビラはできるだけ毎回配る。
    - ③ハンドマイク、横断幕は原則として名古屋に持ち帰る。
  - （3）韓国の裁判闘争に連帯した訪韓行動
- 3、2012あいちの平和のための戦争展への参加  
期間：8月12日（日）～15日（水）10時～18時 最終日は15時まで  
場所：名古屋市公会堂 4階  
今年の我々のテーマ「勤労挺身隊ハルモニに笑顔を取り戻すために」  
14日（火）16：00～17：00ピースステージ「ハムケ演奏・日韓高校生対談」
- 4、2012日韓高校生交流  
期日：8月12日（日）～15日（水）  
人数：光州・高校1、2年生15人（女子11人、男子4人）付添者3人  
名古屋・ハムケ高校生 他  
宿泊形態：ホームステイ（7家庭）  
夕食歓迎会：12日18：30 民主会館 夕食お別れ会：18：00 民主会館
- 5、ニュースN0.57を発行（8月中）して協議の経過と上記の日韓の運動等を知らせる
- 6、その他一紹介活動として
  - ・東南海地震犠牲者追悼記念碑移設完了＝6月22日、旧日清紡名古屋工場から医療法人名南会 ふれあい病院へ。管理団体＝医療法人名南会、国民救援会南支部、愛知県平和委員会（依頼中）
  - ・記念式典＝予定：11月4日（日）
  - ・恒例の追悼式＝予定：12月7日（金）



# 臨時總會決議

## 三菱重工が、交渉を「破綻」させた。

三菱重工は、何ら具体的で総合的な解決案を示さず「交渉」を破綻させました。私たちは、一日も早い被害者救済の立場から、過去の経緯にこだわらず現実的で人道的な解決案を求めましたが、三菱重工は「解決」の二文字にさえ拒否反応を示しました。三菱重工の解決案とは、未来志向の名のもとに、ある財団に韓国留学生ための寄付をする事でした。ある財団への寄付と元原告らの未来志向とは、何の接点も因果関係もありません。被害の事実を認めながら元原告ら被害者を救済しない破廉恥な三菱重工の解決案など幼稚で低劣な偽善でしかありません。

## 戦犯企業三菱重工は、元原告らの被害者を騙した。

三菱重工は、株主総会で「未解決の問題である」という趣旨の発言をして交渉をスタートさせながら、片々たる法律論や身勝手な解釈にこだわり和解の好機を逃しました。交渉を成功させ、株主の期待に応え、元原告ら被害者を救済し、韓国との友好を深め、アジアの成長を取り込む事が、株主と三菱重工に対する経営責任です。先見性と決断力に欠ける三菱重工は、株主の利益を損ない、元原告らの期待も裏切り、67年前の夏のように元原告らを再び騙しました。

## 三菱重工は、戦争犯罪で利益を得た。

朝鮮女子勤労挺身隊は、恫喝と欺罔により無理やり日本に連れて来られ、名古屋道徳工場で劣悪な生活労働環境のなか無理やり働かされ、賃金が未だ支払われていない事は、確定判決となった名古屋高裁判決が明らかにしています。個人の意思に反して連行し使役するのは戦争犯罪です。戦争犯罪に時効はありません。三菱重工の被害者救済の責任は、被害者が救済されるまで永遠に続きます。戦犯企業に「たしかな未来」はない。無理やり連れてきたのなら謝罪するのが日本の社会的良識であり、無理やり働かせたなら補償するのが日本の社会的常識であり、誤りを改めるのが企業の社会的責任です。「この星に、たしかな未来を」（三菱重工の企業ロゴ）望むなら、まずは真摯に過去と向き合い、元原告ら被害者の未来から始めるべきでしょう。

## 人々の力と英知を集めて「人間の砦」を築こう。

私たちは、ありとあらゆる市民団体、労働組合などの公的団体、著名人、政治家、起業家、個人などに訴え、政府や国会への働きかけを強化します。三菱重工の株主と連帯して闘います。そして何よりも韓国の「ハルモニと共にする市民の会」と連帯団結して闘います。三菱重工の犠牲となった東南アジアの人々と連帯して国内外の世論に訴え、大きく三菱重工を包囲して追いつめ、必ず謝罪と補償を勝ち取ります。その第一歩として品川の駅頭に、三菱重工本社前に再び立ちます。

2012年8月3日  
名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊訴訟を支援する会 臨時總會



2012年8月3日

名古屋・三菱朝鮮女子勤労挺身隊  
訴訟を支援する会、臨時総会

三菱重工業株式会社  
代表取締役社長 大宮英明 様

## 抗議文

2010年7月、貴社が「元朝鮮女子勤労挺身隊」問題について話し合いの場を設けることについて、同意して以降、私達は人道的立場から救済を求め続けてきたが、16回の協議を経ても貴社は、日韓請求権協定で解決済みの問題であり、最高裁で当社に法的責任がない旨の判決が確立し、原告個々人に何らかの金銭的解決は考えることが出来ないと表明し、解決案としての内容は既存の日本の財団を通じた韓国からの留学生に対する奨学金であり、原告の救済とは全く無関係であることから、私達はこれ以上の進展は望めないと判断し、7月6日話し合いを決裂せざるを得なかった。原告の尊厳を踏みにじった“話し合いの決裂”の責任は貴社にある。

振り返れば、原告らが貴社に謝罪及び損害賠償を求めた訴訟は、1999年3月1日、名古屋地方裁判所に提訴され、2008年11月11日、最高裁による棄却により、訴訟としては一応の決着を見た。しかし、2007年5月31日、名古屋高裁判決は、強制連行、強制労働を認め個人の尊厳を否定し、正義・公平に著しく反する行為と言わざるを得ないとして、貴社の行為を厳しく断罪して不法行為責任を認めた。判決は貴社の不法行為責任、ひいては賠償責任を承認しながら、日韓請求権協定によって、原告らが裁判所に訴えて賠償を求めることはできないとして、原告らの請求を排斥したものに過ぎず、権利が存在していることは明確に認めている。

又、145回に及び金曜行動、2010年株主総会事前交渉での国や貴社に対する、韓国市民が取り組んだ13万4,126筆の署名や、韓国国会議員超党派100名の署名は話し合いを行う上で決定的な役割を果たしたと言える。しかし、このような努力にも関わらず貴社の全く誠意のかけらもない態度に、2年間振り回されたと思うと憤りを感じざるを得ない。

去る、5月24日韓国大法院は戦時中の広島三菱徴用工原爆被害者裁判で控訴を棄却した二審判決を破棄し釜山高裁に差し戻した。

判決は、日本政府が植民地支配の違法性を認めない状態で、1965年の日韓請求権協定が締結されたと指摘、個人請求権について、日韓両国の意思が一致していたとみる十分な根拠がないとして消滅しておらず有効との初判断を示した。

韓国メディアによると、原告勝訴の判決が出て確定した場合、被告企業側の韓国内の財産が差し押さえられると言い、日本企業の対韓国投資への影響も懸念されると報道している。

私達は貴社に対する賠償請求訴訟が、韓国内において多発することで貴社の立場を損なうことを指摘し、韓国での裁判によって解決を強いられるより、貴社が自らの手で解決を図ることが企業利益にもかなうことを説得したが、貴社の拒否回答は愚かなものと言わざるを得ず、極めて残念である。

改めて言うまでもないが、交渉団が主張したのは法的判断ではなく、13歳、14歳の幼い少女らを進学をエサに連行し、強制労働をさせて、結果的に解放後“慰安婦”に誤認され結婚を破棄されるなど、ひとりの女性としての自尊心まで踏みにじられるようにさせたことに対し、道義的責任次元から貴社がすべきことはないのか自らの良心に問うと言うものであった。

韓国では、ハルモニ達が裁判を起し、今までより大きな闘争を作り出すと述べられており、私達、日本の支援する会も共に闘う決意である。

以上



## 2012年平和のための戦争展

# 『ハルモニに笑顔を取り戻す日まで』



8月12日～15日、名古屋市公会堂で第21回目の「平和のための戦争展」が持たれた。我々「支援する会」も今年は「解決」

の展示をと期待したのですが、三菱の「被害者にいかなる形でも補償金は出さない」のかたくなな姿勢に、展示直前「交渉決裂」に到り、怒りを新たにした展示となった。

数年前より、朝鮮女子勤労挺身隊の事実を次の世代に伝えようとの視点で、中学生にも分かり易い展示を目指してきた。今年もレポート紙を持った中学生が細かくメモを取りながらの見学に、説明にも思わず力が入ります。故郷に帰ってからも「軍慰安婦との烙印で・・・」との説明には「軍慰安婦って何ですか？」と率直な言葉もあり、教科書からの「軍慰安婦」記述削除が大事な史実を次世代に知らせる機会を奪っていることを実感した。

今年は、光州の高校生15人が、戦争展の期日に合わせ来名し、勤労挺身隊問題をテーマに名古屋の高校生と交流した。

この戦争展に向けて彼らが作ってきた作品も展示された。



展示の説明を聞く日韓の高校生  
8月14日



展示された光州高校生の作品

14日のピースステージでは、「歴史を学び未来を考える日韓高校生対談」もあり、ハムケ＝共に高校生平和特派員の名古屋の高校生らと歴史・戦争・平和・友好について深く語りあった。「国の関係がどうあろうとも、私たちの友好は変わらない」との言葉に、未来を託せると思われたひと時であった。



日韓高校生対談の皆さん 8月14日



意見を述べる光州の高校生

課題は、「平和のための戦争展」のタイトルの如く、加害・被害の事実を伝え、二度と戦争は許さないとの思いを次の世代に受け継ぐために、どう青年の参加を進めるか、展示や事前の取り組みが一層求められていると思われた。

(富田 孝正)



# “青少年の力で明日の歴史をつくる”

支援する会が受け入れ体制をとり、企画内容を考えた日韓青少年交流企画の報告です。

「ハルモニと共にする市民の会」が集めた光州市の高校生と引率者の計18人が、8月12日～15日に名古屋市を訪れました。宿泊は7軒のご家庭のご協力によるホームステイでした。日本の中高生は、日韓交流活動をしている「ハムケ＝共に 高校生平和特派員」が10人でした。この青年交流は2010年8月、我々「支援する会」が韓国「市民の会」（光州）の青少年を名古屋に招待



したのを切っ掛けに始まり、昨年12月にはその返礼として名古屋の高校生が光州に招待されました。今年12月にも光州より名古屋の高校生が招待を受けています。今年の12月の訪韓は、「支援する会」の活動として位置づけ、ハムケと共同して代表を送る態勢をとりたいと思います。

12日は空港に訪名団を迎えに行き、夕食歓迎会をしました。13日は大型バスを借り、フィールドワークに行きました。午前は岐阜県可児市久々利の地下軍事工場跡地を、ハムケのメンバーの説明で見学しました。朝鮮人の強制労働によりできた工場跡地です。午後は勤労挺身隊ゆかりの地として、名南ふれあい病院内に移転したばかりの東南海地震追悼記念碑を見学し、村松さんから当時の話を聞きまし



た。14日の午前は日韓の学生数人のペアで自由行動、午後はあいち平和のための戦争展を見学し、ピースステージ「歴史を学び未来を考える、日韓高校生の交流」に出演しました。夜は夕食お別れ会でした。この頃になると皆うちとけた関係ができていました。15日の帰国する訪名団を見送で空港へ行った時には、学生同士やホームステイ先のホストと肩を抱き合い別れを惜しむ姿も見られました。

青少年が歴史を受け継ぎ、ハルモニたちが晒された民族差別という過去を乗り越える力になるという、期待の持てる企画でした。（文責 左右木）





# 金曜行動再開 報告

平山良平

2012年8月10日午前8時15分、東京品川駅東口に集まった人たちは韓国と名古屋からの横断幕を手すりに取り付け、プラカードあるいは丸型ゼッケンを胸につけて立ち、チラシを手にしたそれぞれが通勤の人の流れに分け入って立った。ハンドマイクの第1声は三菱重工に対する金曜行動の2年ぶりの再開を告げた。高橋さんは、三菱重工が朝鮮女子勤労挺身隊員への強制労働を認めておきながら挺身隊員への金銭授与を認めない三菱との交渉を打ち切らざるを得なかったことを明らかにし、高木弁護士は、戦争中、朝鮮半島から13歳14歳の少女たちに日本で働けば賃金も貰え女学校にも通うこともできると名古屋に連れてきて過酷な労働を強いた三菱、戦後67年たっても解決しようとしないうちに三菱に企業としての責任を果たすよう求め、寺尾さんは、戦争中少女たちを朝から晩まで働かせ、戦後になって韓国に帰し、今だに賃金も払っていない三菱重工について、人間の心を持っている企業なのではないかと問いかけ、杉下さんは、三菱に対する2年前までの145回の金曜行動の後、三菱との補償交渉が16回に及ぶも三菱の原告らへの謝罪も賠償もせず、留学生への奨学金の提示に至っての交渉決裂を語り、謝罪と賠償の日まで金曜行動を続ける私たちの決意を宣言し、平山は三菱が原告への未払い賃金を支払い、謝罪と賠償をし、戦後責任を果たすことを求めました。この間に用意した500枚のチラシは配り終えられた。

9時30分過ぎに休憩に入り、喫茶店で梁錦徳さん安虎杰（金恵玉さんの子息）さんを含む韓国からの6名と名古屋からの7名そして関東などからの総計24人が7つのテーブルで交流を深めました。

10時40分から三菱重工本社前で横断幕を持ちシュプレヒコールとサイレントアピールを30分毎に繰り返しました。コールは“三菱重工、今すぐ認めよ、強制連行・強制労働”、“三菱重工、今すぐ踏み出せ謝罪と賠償”、“三菱重工、今すぐ支払い、未払い賃金・賠償金”、“三菱重工、返せ人生、返せ青春”の4つで“大飯原発、再稼働反対”の調子で2回ずつ三菱本社に向けて叫びました。韓国語でも同旨のシュプレヒコールを勤労挺身隊ハルモニと共にする会代表の金熙鏞さんが韓国の調子で呼びかけました。韓国から同行してきたカメラマンと記者が通訳を介して、2年ぶりに金曜行動再開するにあたっての感想を日本人参加者一人ひとりに尋ねた。私は、未払い賃金を払わず謝罪も賠償もしないことは

三菱の問題であると同時に日本人の問題でもある。金曜行動を続けるしかないと応えました。

終わりに、原告の梁さんが三菱に向かって日本語で訴えました。

私は1944年、6年生の在学中に先生から、女学校にも通わせるし、お金もたくさんやる、おいしいものも食べさせるとだまされて、名古屋の飛行機工場に連れて来られました。1年8ヶ月くらい仕事をしたのに、給料は1銭も今までもらっていません。私は6年の13歳で日本に来て、今まで、涙の中で生きています。日本人は世界中で一番正直で偉い人だと習いました。私たちは名古屋の飛行場に入って、天皇陛下のために死んでもいいと一生懸命仕事をしました。しかし、今まで67年たっても1銭も給料を貰っていません。今まで何の返事もありませんでした。仕事を一生懸命しましたが、私たちは叩かれて動物と同じで人間扱いはされませんでした。日本人の学生たちはいいご飯いい物を食べておっても、私たちは粗末で少なくいつも腹が減っていました。

日本人のやることですか。67年間涙で暮らしてきました。あなたたちのお母さんと思って考えてみなさい。日本人は世界一偉い、正直と勉強しました。早く和解して対処してください。手を胸において考えてください。私は明日死ぬかあさって死ぬかわかりません。あなたたちはいい物をたくさん食べていますが、私たちはいいものはないです。明日死ぬかわかりませんから、早く和解してやったらいいと話してやってください。私は今、東京にいますが、明日死ぬかもわかりません。日本人は正直と言ったから、正直なことをしてください。早く日本人は心をあわせて、私たちおばあさんに謝罪し、対処してください。

高橋さんが、梁さんの話を受けて、最後のシュプレヒコールをしました。“三菱重工は返せ人生、返せ青春”

この間、寺尾さんたちはチラシをコピーし



て190枚  
通行人に手渡しました。

金曜行動再開で、普段はいないガードマンと社員がでてきた



**韓国の関連報道から** [報道資料] 10日東京で三菱に謝罪要求‘金曜行動’再開  
.. 梁錦徳(ヤン・クムドク)ハルモニら9日出国

[報道資料]

## “勤労挺身隊動員、 三菱の責任最後まで糺す”

### 10日、東京で三菱謝罪要求‘金曜行動’再開

日本「名古屋訴訟を支援する会」と毎週、東京遠征通じて勤労挺身隊問題解決促す  
梁錦徳ハルモニら原告2人、9日出国... “反三菱闘争本格化させる”

日帝による強制占領期間に幼い年齢で勤労挺身隊として動員された被害者の賠償問題と関連した三菱重工業との交渉が去る7月6日最終決裂した中、日本の支援団体が三菱の謝罪と賠償を促す活動を再開する。



‘名古屋三菱朝鮮女勤労挺身隊訴訟を支援する会’（共同代表高橋信）は来る10日の午前、三菱重工業東京本社前と品川駅前で戦犯企業三菱の勤労挺身隊問題解決を促す‘金曜行動’を本格的に再開する。

東京遠征‘金曜行動’が、去る2007年7月20日から。日本の良心的な市民たちで構成された‘名古屋三菱朝鮮女勤労挺身隊訴訟を支援する会’は三菱勤労挺身隊損害賠償訴訟が高等裁判所で棄却された後、最終上級審である最高裁判所へ上告すると同時に2007年7月から三菱重工業の自発的解決を促した。

名古屋から東京まで往復700kmを越す距離をためらわずに毎週金曜に遠征、金曜行動(デモ)を繰り広げた。‘金曜日’という

日を選んだのは、この日が三菱グループの主な社長団の会議があるからだ。

特に彼ら、彼女らは2008年11月11日最高裁判所が‘棄却’判決を下し、これ以上闘うことが難しい境遇が困難な状況に置かれたにもかかわらず、“不当判決で決して三菱の道義的責任がなくなることはない”として、敗訴判決にも屈せず以後も金曜行動を強行することで三菱を困惑させた。

金曜行動は2010年7月14日、三菱重工業が勤労挺身隊問題と関連した交渉テーブル構成を受容するという意思を明かして中断していたが、その年の7月9日まで総145回、長々満3年の期間だった。

しかし期待とは大きくかけ離れ、交渉は三菱の誠意ない態度によって先月、第16次の交渉を最後に遂に決裂してしまい、‘名古屋訴訟を支援する会’は議論の末に来る10日から東京遠征闘争によって三菱を圧迫して行くことにした。

一方、‘勤労挺身隊ハルモニと共にする市民の会’はこの日の東京金曜行動に梁錦徳ハルモニ(84)をはじめ、訴訟の原告2人を含む6人が参加して抗議行動を持つ予定だ。

金熙鏞(キム・ヒヨン)代表は“東京遠征闘争を皮切りに、国内でも本格的な反三菱闘争をくり広げる計画だ”として、“国民と共に戦犯企業三菱の責任を最後まで糺す”と語った。



# 梁錦徳勤勞挺身隊ハルモニが去る2010年4月29日

## 三菱の社長宛てに出した公開の手紙

私は韓国の光州で暮らす梁錦徳です。

日本にさえ行けば中学校にも通せてやる、それにお金儲けもできるという言葉に騙され、貴社に連れて行かれたのは私がわずか13歳、小学校6年生の時でした。

幼い歳で連れて行かれ、工場で強制労働をさせられた苦痛は、二言三言では説明できません。

また郷里に戻って来てから受けた苦しみは、もっと大きいものでした。夫は私のことを日本に行って体を売っていた女だと勘違いし、他の人のように暖かい家庭を営むことは一度もできませんでした。

今や残されたのはぼろぼろの体だけです。すべて日本

の貴方たちの会社のせいです。

私の歳はもう82です。そろそろ死に対しても考えなければならない年頃です。

最後にお聞きします。解放されてから65年が過ぎました。

貴方たちには愛しい幼児や孫娘がいないのですか？死ぬ前に申し訳なかったという謝罪の言葉ひと言聞きたいというのは、私の度過ぎた欲心なのでしょうか？

이쓰비스증공원 사장님께

저는 한국 광주에 살고 있는 양금덕입니다. 일본에 가면 <sup>한글</sup> 光州로 보내준  
다. 또한 돈도 벌수 있다는 말에 속해 귀회사에 끌려간 것이  
불과 13살 초등학교 6학년 때였습니까  
어린 나이에 공채차에서 공장에서 중계로 일해야 했던 고통은 한  
두 파디 말로 설명할 수 없습니까. 고향에 돌아가 양한요령은  
어렵니까. 남편 역시 일본에 가서 몸버린 여자로 잘못알아 남을  
처럼 따뜻한 가정 한번 꾸려보지 못했습니까  
이제 남은 것은 허약한 몸뚱이 뿐입니다. 모든 것은 일본과 당신  
들의 죄수 때문입니다  
내 나이 이제 82세입니다. 이제 서서히 죽는 일 제 대해서도  
생각 해 봐야 할 때입니다  
저처럼으로 줄고자 합니다. 해방 65년이 지났습니다. 당신들에게  
사정스런 어린 딸과 손녀가 없습니까. 죽기 전에 잘못했다는 사죄  
관마미 말아보겠무는 것이 저의 목숨입니다.  
나는 사죄가 없습니까. 언제까지 기다려줄 수 없습니까  
당신 손에서 절만을 내려주십시오  
나는 당신들의 양심을 끌어지 지켜볼 것입니다  
실력 국에서라도 두 눈 부릅뜨고 싸울 것입니다

2010년 4월 28일

한국 광주에서 원고 양금덕 씀

私にはもう時間がありません。何時までも待っていることはできないのです。貴方の手で結末をつけて下さい。私は貴方たちの良心を、最期まで見守ります。

例え死を迎えても、両眼を見開いて闘い抜きます。

2010年4月28日

韓国 光州で 原告 梁錦徳 筆  
(訳：李洋秀)





《日韓支援者とともに座して抗議する梁錦徳さん  
三菱重工本社前で2012. 8. 10》

## 会員の皆様、日ごろのご支援ありがとうございます

お知らせのように、約2年に渡り、粘り強い交渉を重ねてまいりましたが、三菱の『いかなる形でも、被害者ハルモニらに補償金は支払わない』との理不尽で頑迷な回答に、怒りの「交渉決裂」となりました。元原告は、金中坤さん87歳を筆頭に、ハルモニの皆さん全て80数歳になられ健康状態も良くありません。

「もう待てない」の気持ちでいっぱいです。

すが、現実にはさらに闘いを継続し、強めなくてはなりません。日ごろのご支援にも関わらず、財政的にもきわめて厳しい状況をご報告し、会費更新・カンパなどの財政的ご支援を再びお願いする次第です。

2012年3月1日～8月25日まで半年間の会計概報は

|    |        |       |                       |
|----|--------|-------|-----------------------|
| 収入 | 会費・カンパ | 160万円 | 《会費更新率約42%（会員約1000人）》 |
|    | 雑収入    | 20万円  |                       |
|    | 合計     | 180万円 |                       |

支出 交通費・協議関連・韓客関連・会場費・会報など185万円 となっています。

既に収入を上回った支出となっていますが、現在は、前年度からの繰越金約100万円でのいいております。今後の品川金曜行動の継続、会報の発行、さらには昨秋の借入金（120万円）返済約定期限も近づいております。

これまで、長きにわたってご支援いただき、さらに心苦しいお願いですが、何としても闘いを継続して行きたいと思っております。支出など会計努力を一層進めてまいります。重ねて会費更新、さらにカンパなどよろしくお願い申し上げます。

（会計事務担当 富田孝正）

### <会費更新状況について>

宛名右下に今年度会費の納入状況が記載されています。事務局の手違いにより、記載ミスがありましたらご一報ください。

### <郵便振込手数料のご負担をお願いいたします>

郵便振込の際の手数料は、振込者負担でお願いしたいと存じます。郵便局備え付けの青色の振込用紙をご使用下さい。

\*手数料はATMが窓口よりも安くなります。またATMで直接ご自身の口座から番号を入力して振込していただければ、手数料は不要です。

# No. 5 7

2012. 8発行

発行：名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊訴訟を支援する会

【事務局】〒464-0016 愛知県名古屋市千種区希望ヶ丘1-5-37

高橋 信・方（TEL/FAX 052-762-1528）

【連絡先】〒464-0853 愛知県名古屋市千種区小松町6-9-1

小出 裕・方（TEL/FAX 052-731-9445）

編集＝加藤克之ほか

郵便振替 00800-5-86083 三菱訴訟を支援する会

写真＝松谷・富田ほか

HP：<http://www.geocities.jp/teisintainagoya/index.html>